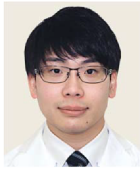


MRを用いた看護教育



因 直也助教

最新技術駆使し育成

育」についての研究です。近年、VR（仮想現実）やAR（拡張現実）と呼ばれる技術の進歩がめざましく、ゲームなどの娯楽だけでなく教育や医療の分野でも活用されています。

い看護教育について研究しています。医療現場での実践の難しさ、新人看護師の中には、学校で学んできたことを実践の場でうまく発揮できずに、苦労する人もいます。その原因の一つとして、学生の段階で実践経験を積み機会が少ないことがあげられます。看護に関する能力や知識は

し、教員に指導スキルが必要なことやリアリティの再現が難しいことなど、さまざまなハードルがあるのが現状です。因先生が開発したMRプログラムはそういった課題を解決するために役立ちます。MRを用いた実践経験

このプログラムは、特に気を配る点の多い手術後の患者に対する観察を想定し、設計されました。生徒はHoloLensというMRを投影するゴーグルを装着し、投影された指示に従って患者を観察し、提示される選択肢に対して自らの判断を入力していきます。このプログラムには、熟練看護師の実践に基づいたデータが組み込まれており、実際の流れに沿った看護実践を体

験できます。実践後には、正しい手順と自分の判断を照らし合わせるとともに、解説も表示されることで、振り返りも含めた学習を自己完結させることができます。実際にこの教材を使用した学生は、実践に対する理解度、不安度、自信について改善しており、MRを用いた「考えながら行動す

る」学びが学生に良い影響を与えていることが分かります。最後に、因先生からのメッセージ
医療、看護の世界でもDX化が進んでいますが、患者さんのメモリットにつなげることが重要だと考えています。最新技術を使って

よりよい看護教育を行う、質の高い看護を患者さんに実践できる看護師の育成を目指しています。看護の世界にはまだまだ課題が多いですが、新たな技術を駆使することで多くの課題を解決できる可能性があります。皆さんの柔軟な発想

【保健学研究科／看護学領域】
第37回の先生因 直也 助教
「保健学研究科／看護学領域」
研究のなしてをご紹介！
ひろだい探偵団は引き続き、本学の先生たちの面白い研究をご紹介します。これ

探究心旺盛な小中高生の皆さんに向けて、弘前大学の先生たちのユニークな研究を紹介するこの連載。今回は「MR (Mixed Reality) を用いた看護教育」を用いた看護教育

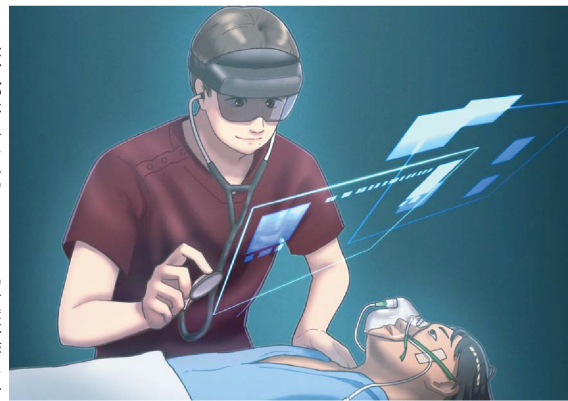
弘前大学の因直也先生は、それらの技術のうちの一つ、現実世界に仮想世界を映し、操作できるMR（複合現実）を用いて、よりよ

経験を通して身につくものが多いものの、近年はコロナ禍の影響で現場での実践の機会はさらに少なくなっていました。そういった課題を解消するため、教育機関では、実際の状況を再現しながら専門的な知識・技術・態度を統合して能動的に学ぶシミュレーション教育が行われています。しか

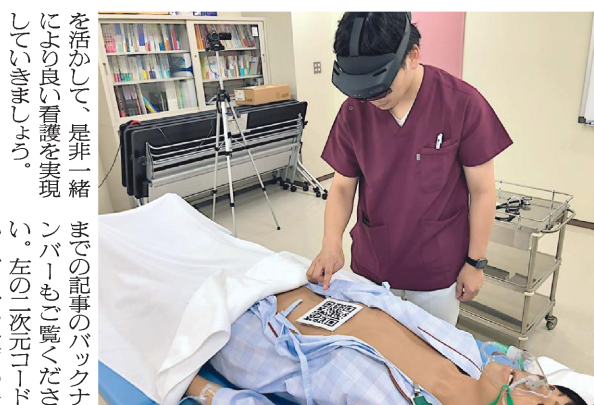
観察を想定し、設計されました。生徒はHoloLensというMRを投影するゴーグルを装着し、投影された指示に従って患者を観察し、提示される選択肢に対して自らの判断を入力していきます。このプログラムには、熟練看護師の実践に基づいたデータが組み込まれており、実際の流れに沿った看護実践を体



((37))



イラスト・弘前大学大学院地域共創科学研究科 赤沼しおり



MRを用いた研究風景



※この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。 令和7年1月20日 陸奥新報掲載